



## 2. 指標設定

成果指標	指標名	林道の維持管理		目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	—				総合計画/後期基本計画において、基本施策(4-1-2)目標達成のために重要な施策となっている			
活動指標	指標	a	補修額	b		c		d	
	数値	目標	—	目標		目標		目標	

## 3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H20	H21	H22
林道の維持管理		—	—	—

活動指標名	単位	H20	H21	H22
a 補修額	千円	7,956 千円	47,427 千円	56,585 千円
b		—	—	—
c				
d				

## 4. 課題と対応

課題
未舗装箇所が、異常気象の降雨により洗堀され通行に支障きたしている箇所があり、維持管理面からも早期の舗装が必要である
対応（改善点等）
国・県の補助事業による林道整備（舗装）事業の検討

## 5. 事業費・・・H20～H22（決算額）、H23（予算現額）

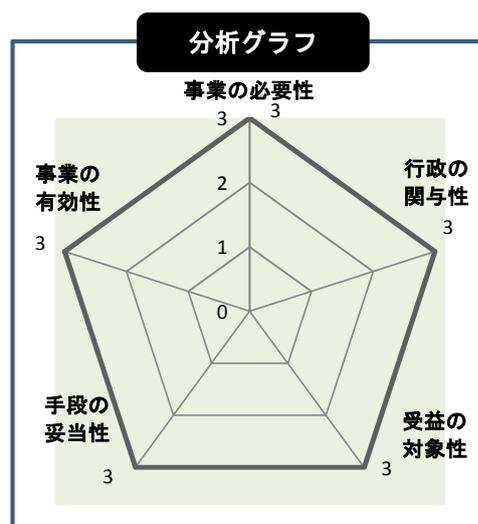
決算額（千円）		H20	H21	H22	H23
		12,996	60,363	65,701	71,237
うち経常経費		12,103	9,669	991	12,545
財源内訳	国費			48,400	
	県費			4,346	8,692
	市債				
	その他				
	一般財源	12,996	60,363	12,955	62,545
うち経常		12,103	9,669	991	12,545
事業費に係る人件費		1,698	1,707	2,190	2,150

## 6. H24年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
国の臨時交付金等を活用し、平成21年度より未舗装箇所の舗装工事を実施している

## 7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 通行者の安全な通行を確保を目的に実施する維持管理事業の必要性は高い
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 林道管理者は市である
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 対象者は林道の利用者であるため、公共性は高い
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 異常気象発生後の点検はもとより、定期的な点検パトロールによる補修箇所の把握補修は重要である
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 対策工事の実施により、目標である利用者の安全な通行が確保されていると判断する



## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	限られた予算の中で事業効果を上げること